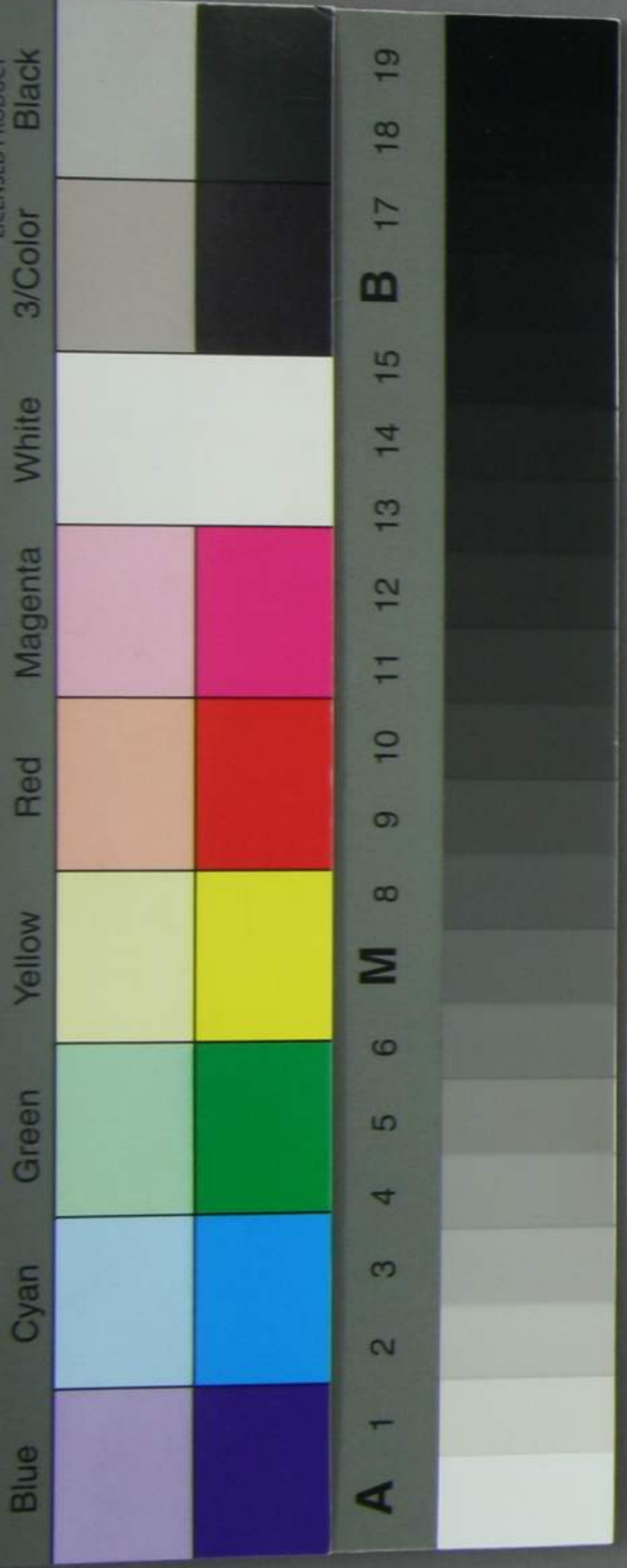


趣意書

鑛道ノ伸暢ヲ圖ルハ今日急務中ノ急務タルヤ言ヲ
待タズ然リ而シテ其實施如何ヲ顧ミレハ既ニ一旦起工
ヲ令セラレタル東京高寄線ニシテ尚ヲ其着手ヲ止
メラル、如キ不振ノ状況タリ蓋シ從來其規模ヲ立ル
國カラスシテ而シテ其用費ヲ辨スルノ方定マル有ラサルニ
是レ因ル故ニ政府ハ自今而後既成鑛道ノ興業資
本ヲ据置キ毎歲之レヨリ生スル所ノ純益ヲ以テ延線
費ニ充ツルヲ良トス然レ凡惟此純益ノミヲ以テ十分ト
為スヘカラサレハ他ニ亦政府ノ是トスル所ノ方法ニ依リ
増額アラント要ス若シ夫レ前議ノ旨趣ニシテ政府ノ
是認スル所ト為リ即チ實行セラル、ニ至ラハ鑛道局ヲ
工部省ヨリ分離シテ其獨立ヲ許ス最モ緊要タリ何
トナレハ鑛道ノ業タル固トヨリ私工ニ屬ス故ニ該事業ヲ以テ

大正十一年四月



公工ヲ掌トルノ屬タル工部省ニ屬スル其制頗ル妥當
ナラス然ノミナラス原ト該局ヲ該省ニ屬スルハ該省ヲ
シテ該局ヲ監視董督シテ以テ其業務ノ直ニキヲ制
セシメント欲スルニ外ナラサルベキニ其業務ハ一種特別ノ
モノタルヲ以テ局外者ノ之ヲ監視董督シ得ヘキニアラス
而シテ規模ノ擴張ニ從ヒ事務令ヨリ一層ノ多端ヲ加フ
ヘキヤ言ヲ待タス而モ尚ラ現制ヲ固守シテ改ムル所ナクシハ
弊害而出シテ遂ニ事業滞滯等ノ憂ヲ醸スヘキヤ
明ケシ之レニ反シテ斷然其分離ヲ許サハ自進自取ノ
權利ト氣力トヲ發揮シテ業務ノ活達快通ヲ得且ツ
事々本當ヲ經由スルノ煩ナキヨリ諸般ノ冗費ヲ省ク
亦甚ク大ナリトス故ニ前者採ラレハ廢局置廳ノ事モ
亦行ナハレサルハカラス

明治十四年

野田益晴謹誌